

平成26年度 第2回 明石市立学校通学区域審議会 議事録

日時 : 平成 26 年 5 月 23 日 (金) 16 : 00~17 : 40

場所 : 明石市役所議会棟 2 階 第 2 委員会室

出席委員 : 13 名

配布資料 : 「平成 26 年度第 2 回明石市立学校通学区域審議会 次第」「平成 26 年度明石市立学校通学区域審議会資料」「平成 26 年度市立小学校・中学校・特別支援学校児童生徒数」「2 - (2) 大久保小学校の過大規模対策について」

◎ : 会長 ○ : 委員 □ : 参考人 ● : 事務局

1. 開会

●事務局

只今から明石市立学校通学区域審議会を始めさせていただきます。

●事務局

本日は委員 14 名中、13 名にご出席いただき、会議が成立しております。

それではこれより議事に移りますので、会長、進行をお願いします。

2. 議事

◎会長

今、大学ではラーニングコモンズと言って、学生ができるだけ集まって自分たちで討議して結論を出すというような図書館の施設づくりをしています。昔は図書館というと図書が沢山あって静かに本で調べるというイメージでしたが、今はどこの大学でもホワイトボードやプロジェクタを使って話し合う場を作るということを進めています。コミュニケーションを取り、自分たちで考えるような取り組みのスペースが求められています。

我々が今審議している大久保小学校についても、求められる教育に関して充実したものを与えられるように考えていく必要があります。図書館の一例を挙げましたが、学校には児童数に応じたスペースが必要ですので、今日の会議でもそういう意図を汲みながらご検討いただきたいと思います。

それでは次第に基づいて、校区の現況について、お手元の資料により事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料「平成 26 年度明石市立学校通学区域審議会資料」をご覧ください。例年この審議会の中で明石市全体の通学区域の状況について報告しております。大久保小学校の過大規模対策の議論の参考になるようなところを中心に、要点を説明致します。

資料 1 ページはこの審議会についての根拠となる条例規則です。

2 ページが市内の学校区域の状況です。小学校が 28 校、中学校が 13 校、それぞれの区域を示しております。

3 ページに全市の児童・生徒数・学級数の推移についてグラフを載せております。ここ最近の状況としては、少し減り気味ながらほぼ横ばいといった感じです。

4 ページには具体的に各小学校の児童数・学級数の推移を載せております。大久保小学校は平成 21 年度に児童数が 961 人、学級数が 31 学級だったものが、本年度は 1,302 名の 40 学級で、341 名の 9 学級分増えています。本年度開始前に施設整備を行い、42 教室を保有しておりますが、40 学級ありますのでほぼ一杯という状況です。その他に増えている学校としては、山手小が平成 21 年度と比較すると 108 名増えています。この傾向は今後も継続するのではないかと見込んでします。

一方、大久保南小学校では、平成 21 年度で 1,205 名の 37 学級でしたが、本年度には 177 名、4 学級の減です。人口動態から見てもまだまだ減っていく傾向です。

もっと大きく減少しているところでは、江井島小学校ですが、平成 21 年度では一番のマンモス校で 1,180 名、39 学級あったものが、現在では 369 名、13 学級も減っています。二見北小学校も同様に、約 300 名、9 学級減っています。

このように大久保地域では増加傾向のところがありますが、市全体で見ると、大幅に減っている地域が多くあります。特に魚住地域や二見地域では軒並み 100 名以上減っているという状況です。

5 ページに中学校の生徒数・学級数を掲載しております。中学校では小学校ほどの顕著な変動は見られませんが、やはり大久保中学校では平成 21 年度当時と比べると、100 名以上、3 学級の増加が見られます。山手小学校区が校区に含まれる大久保北中学校については、まだ大きな影響は出ていませんが、21 年度当時と比べると 50 名程度増えており、ここ数年はほぼ横ばいです。今後何年か後に影響が出てくると思われます。

減っているところとしては、二見中学校が 151 名、3 学級の減となっています。

6 ページ、7 ページには参考として校区の面積、人口、児童数・学級数の状況等を掲載しております。

8 ページには、人口構成として各小学校区の年少人口、生産年齢人口、老年人口とその割合、平均年齢を載せております。松が丘小学校区では高齢化が進んでおり、大久保南小学校区は若い世代が多いという傾向があります。

以上が校区についての現況です。

◎会長

只今の説明について、ご意見やご質問はありませんか。無いようでしたら、次へ進めます。議事の 2 つ目「大久保小学校の過大規模対策について」事務局から説明をお願いします。

●事務局

まず、前回から今回への流れについてご説明致します。

前回は 5 つの対策案について議論していただきました。抜本的に 700 人～800 人規模にするためには新設校の設置という方策があるが、経費面や開校に至るまでの様々な手続きにかかる期間や全市的に児童数が減少している状況を鑑みると、今すぐに手をうてる手立てではない。しかし全市的な通学区域の見直しなどは今後検討する必要があるだろうというご意見がありました。

また、敷地外に校舎を増築することについては、もし国道を越えたところに増築するならば子どもの安全面、学校運営面に問題がある。また児童数そのものは減らないので、このまま児童が増えるという状態が続けば、例えば給食や施設の利用面、安全面等で難しいのではないかというご意見をいただきました。

そのことを踏まえ、まずは少しでも児童数を抑えるという方向で検討していかざるを得ないということで、前回お示しした調整区域の解消や通学区域の変更等により児童数を削減する方向で、改めて資料作成の指示がありました。

子どもの事を第一に考えとしながら、地域の中で子どもを育てるということは非常に大切なので、自治会活動を尊重した形の校区にすべきということや、できるだけ過大規模校を解消できるよう、一つの目安として1,000人規模の学校を目指す案を作るよう指示がありました。

以上を踏まえ、今回の資料において現時点での複合案を提示しています。

まず自治会について説明します。資料の2ページに地図を載せております。大久保小学校区は南北に長いですが、北部は市街化調整区域で基本的に家があまり無い為、この地図は南部地域を中心に載せております。

まず①の谷八木の調整区域については、上河原自治会、コモンスター大久保自治会がありますが、その他のピンク色の部分全てが大久保町自治会になっています。

②の地域ですが、紫色の部分焼野自治会です。焼野自治会の北側の一部については大久保小学校区、藤江小学校区、それから本来は藤江小学校区ですが調整区域として大久保小学校へ通えるところがあります。

③の地域は大久保小学校区と大久保南小学校区の境にある3つのマンション群です。ライオンズ明石大久保は自治会ではありません。プレステージも今のところ自治会としての登録はありません。自治会の無いところはマンションの名前を表示しております。

④はJR大久保駅の北側にある黄色い点線で囲んでいるところです。こちらは字と自治会が入り組んでおり、細かく見ますと自治会に入っていなかったり、飛び地になっていたりするところもありますので、あくまで参考として色分けをしております。ピンク色で示している大久保町自治会が一部含まれていますが、大部分は大久保駅前自治会と、山手小学校区にも一部かかっている三軒茶屋自治会、山崎自治会があります。

⑤は宮前自治会で、⑥が森田自治会の雲楽池より北側の一部になります。⑥の右下、雲楽池の北東（白色点線で囲んだ地域）地域については、大久保小学校区ですが希望により沢池小学校へ通えるという調整区域になっています。

⑦は森田自治会の国道2号線より北側の一部と、官舎自治会、ローズビレッジ自治会です。

資料1ページにはこれらを組み合わせた複合案として、6案を掲載しております。

まず案A(1)ですが、まず①(谷八木調整区域)と②(焼野自治会等)を大久保南小学校区にし、③(マンション群)は大久保南小学校区と隣接するところですので大久保南小学校に、④(駅前自治会関係)を大久保南小学校に、⑤(宮前自治会)を沢池小学校にした場合です。

案A(2)は、①の谷八木調整区域を解消して本来の谷八木小学校区にした場合です。

案Bは案Aに加えて⑥(森田地区の内、消防署東側の南北の道より東側)を、沢池小学校区にした場合です。

ここまでの①～⑥の地域だけだと、大久保小学校の児童数は5年間で最大で1,400人になるという見込みから300人程度減るだけですので、1,100人ぐらい残ります。

数字だけの調整になりますが、それに加えてさらに大胆に⑦の刑務所官舎やローズビレッジ等、国道2号線より北側の地域も沢池小学校にした場合は、約380人の減で1,040人になるということが5年間の削減効果の推計として出ています。

この詳細が3ページ以降に出ています。まず案A(1)ですが、①～④が大久保南小学校に、⑤(宮前自治会)だけが沢池小学校に行った場合です。

この表では平成27年から推計を載せていますが、平成27年度から校区変更を実施するというのではなく、あくまでできるだけ効果を上げるために仮に平成27年から反映させてみたもので、その後の5年間でどれだけ児童数を減らせるかというシミュレーションです。5年間で262名減りますので、学級数としては43学級まで増えるという予測から減って34学級程度に収まります。

一方、大久保南小学校では、今のまま変更しなければ学級数が一気に21学級まで減ってしまう見込のところ、244名増えて29学級になります。沢池小学校については、21学級です。

4ページの案A(2)は、①の谷八木調整区域を解消して谷八木小学校に行った場合の案です。②の焼野地域については変更していませんので、減少見込人数としては237名で、大久保小学校は43学級から35学級になります

5ページの案B(1)は、⑥の森田の消防署より東側の地域も含めたもので、大久保小学校は約300名減り、34学級になります。大久保南小学校と沢池小学校の規模は先ほどの案A(1)とほぼ同じです。

6ページの案B(2)は、①(谷八木調整区域)を解消し、谷八木小学校区にした場合で、274名の減となります。

案C(1)については、更に大胆に変更して380名の減が見込まれます。大久保小学校では43学級から32学級に減ります。案C(2)は①(谷八木調整区域)を解消した形です。

以上6つの案の削減状況は1ページにまとめています。この推計は昨年度の数値を基にしています。平成27年の新入学者から反映させ、5年間で児童数の減少にどれだけ効果が出るかというシミュレーションです。

◎会長

分からないところはどんどん尋ねて明確にしていきたいと思います。先ほどの説明は数値的には分かりましたが、安全や通学距離という要因も含まれていたのですか。通学距離については入っていたように思いますが、いかがですか。

●事務局

距離についてですが、受け入れ先は隣接する学校にしておりますが、特に⑥⑦の森田地域の国道2号より北側や官舎自治会については、大久保小学校はすぐ近くにありますが、沢池小学校へはその倍以上の距離になります。しかし今回は数値的に思い切って削減できる数ということで、この資料を作っております。

他にもやり方はあると思いますが、自治会をできるだけそのまま残す形で校区を分けると

ということや、受け入れ先の学校の規模を考慮すると方法は限られてきます。例えば山手小学校については今後ますます増加していく傾向がありますので、山手小学校に隣接する地域を山手小学校に変えるという案は省いています。今回は児童数を優先した形での提案となっています。

通学の安全という面では、大久保南小学校や沢池小学校へはそれぞれ隣接するところからの通学路が既に整備されておりますので、ほぼ問題ないかと思えます。谷八木調整区域については元々が谷八木小学校区で、現在も谷八木小学校に通っている人がいますから、幹線道路や川など注意の必要なところはありますが、基本的に通学路として整備されています。

◎会長

まずは児童数を中心に見て、隣接する小学校との距離も考えていただき、可能な限り安全面も含んで今回の変更案を作っていたのだと思います。

私自身、安全面についてはまだ不確かな部分があるように思いますので、校区をよくご存知の委員はその辺りをチェックしながら検討をお願いしたいと思います。

もう一つ質問があります。例えば案A（2）は237名の増減、案C（1）は380名の増減とありますが、大久保小学校への削減効果としては230名程度でも十分で効果があると捉えていいのですか。

●事務局

大久保小学校では現在1,302名の40学級（特別支援学級を含む）で何とか運営していただいています。ですから何も対策を取らないよりは改善されるので、運営できないということではありませんが、本来の望ましい姿からすればまだまだです。

◎会長

ある程度の効果があり、現状よりは減っていくがまだまだ理想とする形にはなっていないだろうということですね。案C（2）の380名の減であればどうですか。それでもまだ1,000人を超えていますよね。

●事務局

6年生が卒業して1年生が入学してくるというサイクルを5年間繰り返して380名の減というところですので、同じ傾向で進めばその翌年には更に40～50名減り、6年目には1,000人規模になるというようなシミュレーションです。

○委員

確か市内では藤江小学校の通学距離が一番長かったですが、それと比べて、案に上がっていったように森田地区から沢池小学校へ行くとなると通学距離はどうなりますか。

●事務局

藤江の焼野地域については、校区の現況についての資料の6ページに藤江小学校の通学距離が2.4キロとあるように、市内で一番遠くなっています。案として挙げている地域の通

学距離については全て2キロ以内に収まっており、そこまで遠いところはありません。

○委員

焼野地区から藤江小学校まではアップダウンもあり距離も長いと思います。

官舎や宮前自治会の辺りは平地ですね。P T A等の意見では兄弟で学校が異なるのは困るということもあります。そういう決め方はいけないかもしれませんが、官舎の自治会であればよく転勤があるのでどちらかという構わないだろうという気がします。

宮前自治会や森田自治会からは抵抗があるかもしれない。

◎会長

⑤⑥⑦（宮前、森田の一部、官舎、ローズビレッジ自治会）を沢池小学校にするという案についてですね。

○委員

自治会としては触りやすいのではないかと思います。

◎会長

それと通学距離が2キロ以内で平地だということですね。

○委員

私の地域でもかつて校区が分かれたことがあります。兄弟で学校が変わることについてはあまり言われませんでした。そういう温情を挟んでいると結局何もできなくなるので、この審議会ではある程度のところできちっと線引きした結論を出す必要があると思います。

○委員

昨年大久保小学校でこの審議会を行った際、いろいろと意見が出ていましたね。

□大久保小学校区連自治協議会会長

P T Aの役員からはなかなか厳しい意見が出ていました。私も出席していましたが、来られていた役員が谷八木調整区域の方であったこともあり、なかなか難しいというのが実感です。

○委員

その辺りについては我々の想像以上に反対の発言があります。そんなことを言っているのは進まないで、バツサリといくしかありませんが。

◎会長

これまでの伝統的な事情も要素としてはありますが、我々の目的は大久保小学校の過大な児童数を解消するということです。その次に安全面、通学距離、受け入れ側のキャパシティを考えて、客観的に案を出していかなくてはなりません。

前回会議までの話し合いでは自治会を中心に区割りするということでしたので、その点で

は今日の事務局からの案については、皆さん納得していただいているように感じますが、よろしいでしょうか。

○委員

自治会としてはそれがありがたいです。色々な行事の際に校区が跨っていると非常にやりにくいからです。

◎会長

例えば案C（1）でも可能ではないかということですね。

○委員

森田自治会はちょっと抵抗を示されるでしょう。

□大久保小学校区連合自治協議会会長

森田自治会でも刑務所より東（⑥）は切り離して考えてもいいのではないかと思います。それと⑤宮前自治会は大久保小学校まで一番遠いので、沢池小学校の方が通学しやすいのではないかと思います。

③マンション群については、大久保小学校から大久保南小学校が分離・新設された際に、大久保小学校区のまま残ったわけですが、当時、どのような経緯で両校区の線引きがなされたのかは分かりません。ただ、マンション群は両校区の境に位置していますので、すぐ近所の子どもは大久保南小学校へ通っているという状態です。

◎会長

森田自治会は国道2号線を境に自治会が2つに分かれるということですね。

●事務局

緑色で示した森田自治会は雲楽池を囲むような地形になっています。南側については国道2号線を越えなければいけませんので除き、2号線で区切った北側の地域を変更する案か、もしくは消防署東側の南北の道で区切る案にしております。

◎会長

自治会のことをよくご存知の委員からの発言が多かったと思いますが、客観的に見ていかがですか。

○委員

先ほどおっしゃった、⑤⑥（宮前自治会、森田自治会の一部）を沢池小学校へ、③（マンション群）を大久保南小学校にする案は、先ほどの6案の内どれになりますか。

●事務局

6つの案にはありませんが、9ページ以降に地区ごとの個別の推計を載せております。まず①の谷八木調整区域についてですが、校区を変更すると5年間で117名減ることにな

ります。②（焼野等）は大久保小学校区に含まれる藤江の地域になりますが 25 名減ります。これに藤江調整区域を入れると更に 20 名ぐらい減ると思います。③（マンション群）は 30 名程度です。④（大久保駅前区域）は 72 名、⑤（宮前自治会）は 18 名、⑥（森田自治会の東側）は 37 名、⑦（官舎、ローズビレッジ、森田自治会の 2 号線より北側）は 81 名です。

これらは住民票の数値からおおよそ地図と地番とを見比べて拾い上げたものですから、誤差があると思います。概ねこれぐらいの数字ということでご判断下さい。

先ほどの案についてですが、⑤⑥（宮前自治会、森田自治会の東側）を足すと 18 名と 37 名で 55 名、③（マンション群）の 30 名を加えても 80 名程度です。1,420 名から 1,350 名程度にはなりますが、現状と比べると 50 名程度の増加になります。

⑦の内、ローズビレッジや森田自治会の 2 号線より北側を除きますと、官舎については昨年の子どもの数が 25 名程度ですので、⑤⑥（宮前自治会、森田自治会の東側）、⑦の官舎のみ、③（マンション群）の合計で約 100 名となります。

◎会長

そこだけの変更では解決にならないということですね。その他の地域についてはいかがでしょうか。①（谷八木調整区域）については、谷八木小学校に行く案と大久保南小学校に行く案とがあります。

○委員

東西だけでなく南北についても考えるべきだと思いますが、北側の中の番自治会、松陰自治会、松陰新田については自治会を割るとなると絶対にもめますね。自治会には色々お世話になるので、自治会の意見を無視するわけにはいかない。

◎会長

②③④（焼野自治会等、マンション群、大久保駅前等）に関しては大久保南小学校へという案が出ています。

○委員

谷八木川を挟んでアップダウンがあるので、②（焼野自治会等）からは谷八木小学校に行くとしてもアップダウンがあるが、我慢してもらわなければ仕方ない。

◎会長

ただ、大久保南小学校へ行く方が 250 号線は越えなくてもよいのですね。

○委員

250 号線がありますがここは高架になっています。それと今南北に新しい道が造られていますので、これが完成すればあまりアップダウンが無くなり随分違ってくる。

◎会長

ということは①の谷八木調整区域を谷八木小学校にする案も問題無いということですね。

○委員

一部の方は既に谷八木小学校に行っていますから。ただ大久保小学校は近くに見えるし平地ですから、行きやすいでしょうね。

○委員

①（谷八木調整区域）から谷八木小学校までの通学路の整備はできているのですか。

○委員

新しくできる谷八木松陰線はまだ工事中ですが、広い歩道が付きますので、これが2年後に完成すればそんなにアップダウンなく行けます。

◎会長

現状では、川のアップダウンがあっても大久保南小学校の方が安全でしょうか。

○委員

今なら大久保南小学校の方が少しは緩やかです。距離も近いですから、どちらかを選べとなれば大久保南小学校を選ぶでしょうね。

●事務局

①谷八木調整区域の人数は、昨年度 139 名ですが、この地域は元々谷八木小学校区ですから今も数名は谷八木小学校に通っています。そういう児童は先ほどの工事中の道を外して村の中を抜けて通っています。

それから、もし大久保南小学校に変える、もしくは大久保南小学校の調整区域とすれば、大久保小学校区と谷八木小学校区の境のところに谷八木川にかかる橋があり、この橋を渡ることになります。橋を渡ればすぐに大久保町わかば地区（大久保南小学校区）の通学路になっているので、その道をまっすぐ進んで大久保南小学校に通うことになります。

◎会長

そういう意味では安全ですね。

○委員

森田にも調整区域がありますが、これから答申をしていく上では、調整区域は無くして「こちらの学校へ行ってください」と決めてしまうということでもいいのですよね。調整区域としてではなく、はっきり校区の線を引くということですよね。

○委員

調整区域にして選べるようにすれば、また偏ってしまいますから。

◎会長

自治会の事をご存知の委員からは、①（谷八木調整区域）は大久保南小学校へという方向性が出ましたが、そうすると現時点で谷八木小学校に通っている人もいるということが問題ですね。

②（焼野自治会等）についてはほとんどが大久保南小学校へという案ですね。案A（2）は②（焼野自治会等）を変更せずにこのまま大久保小学校に残すというものです。

●事務局

①（谷八木調整区域）が大久保南小学校になり、②（焼野自治会等）が大久保小学校に残るとすると、大久保南小学校の校区を抜けて大久保小学校に通うことになるので、人数を少しでも増やすということもあり、残ってしまう②（焼野自治会等）もまとめて大久保南小学校にしたものです。

もし①（谷八木調整区域）が谷八木小学校に行くとなると、②（焼野自治会等）を谷八木小学校にする理由があまりないのかと思います。距離的に大久保小学校の方が近いということもあります。そういう点で②（焼野自治会等）を谷八木小学校にするパターンを抜いた案にしております。

◎会長

事務局が作った案については大きな問題点は無いと思います。自治会を代表した委員からも妥当な案であるというような発言が多いと思います。

先ほどの道路が2年後に完成することを見通せば、我々の答申から実際に校区が変わるのも2年後になるかもしれませんので、①②（谷八木調整区域、焼野自治会等）からは、大久保南小学校だけでなく、谷八木小学校にするという案もありうるということですね。

東側（⑤⑥⑦）と南側（①②）の辺りはよく分かってきましたが、④（大久保駅前自治会等）の検討はいかがでしょうか。

④（大久保駅前自治会等）が一番近い大久保南小学校にする案になっていますが、大久保小学校は近くにあるので、南へ行けるのかということですよ。

○委員

JR大久保駅の通路を通っていくのですか。

●事務局

そうですね。

○委員

青色の大久保駅前自治会は広いですが人数は少ない。

●事務局

大久保駅前の昨年的人数は12名程度、三軒茶屋が31名です。ただこの地域にはまだマンションが建つ可能性があるかと思います。

◎会長

地図上で見ると三軒茶屋からも大久保小学校の方が近いと思いますし、大久保南小学校へはJRを越えなければいけません。しかし大久保南小学校がどんどん減少傾向にありますので、そちらにも通ってもらいたいところです。

今問題になっているのは③④（マンション群、大久保駅前自治会等）で、人数は少ないですが大久保南小学校にする案があり、更にマンションができたとしても大久保南小学校で収容できるのではないかということですね。

委員の皆さんの考えをもう少し出してください。

○委員

どうしても国道を跨がざるを得ないので、その辺りについて地元でどんな意見が出るか。自治会とも相談しますが、大久保小学校を何とかしなければいけない状態なのは分かっているので、相談してやっていかなければ仕方が無い。自治会の校区はできるだけ1つに絞りたいですが。

◎会長

全てがうまくいく方法は無いので、どこかで妥協点を見出したい。大久保小学校の児童数を減らすためには、可能であれば国道を越えてでも減少傾向のある小学校に行っていただくということですね。但しあまりにも危険というような場合には当然止めなければなりません。

これまでの話し合いを簡単にまとめますと、どこのラインで切るかはまだ分かりませんが⑤⑥⑦（東側）については沢池小学校へ、①②（南側）についてはまだ問題点がありますが大久保南小学校か谷八木小学校のどちらかへ、③④（西側）については大久保南小学校へということだと思います。そこで地元の自治会がどのように考えるかですよね。

○委員

自治会の中で特別委員会でも作って検討していただかないといけないと思います。中でよく検討して回答をもらわないと何ともできません。関係の自治会の会長等を巻き込んだ委員会を立ち上げていかないとなかなか難しい。我々だけで勝手に先行して自治会が横を向いてしまったら困るので。

○委員

それと子どもの安心安全を考えなければいけません。その点ではこの案の中では平地の移動になる⑤⑥⑦（東側）くらいです。①②（南側）も谷や川があってちょっと危ない。④の人が南へ来るとなると国道やJRを横断しなければならぬので危険が伴う。

◎会長

④については安全な道路が確保できるのかということによって決まるということですね。しかし山手小学校へもっていくことはまず考えられないので、大久保南小学校にするか従来どおり大久保小学校ということになります。

○委員

三軒茶屋からは山手小学校の方が近いから、それなら大久保南小学校ではなくて山手小学校へという意見が出るかもしれない。一度そういう案をもって検討してもらい、こちらの意見とすり合わせて、うまく行きそうならそれでもいいと思いますが。

◎会長

今ご意見があった方向で一旦まとめて、自治会の意見を聴取し、それから我々の最終的な意見を出すということで、委員の皆さんはいかがですか。

□大久保小学校区連合自治協議会会長

この件について、私自身は何らかの方法を取らなくてはいけないと思っています。谷八木の調整区域は歴史的な経緯で調整区域という形になってはいますが、当時はかなり厳しいやり取りがあったと聞いています。谷八木小学校への通学路の問題と、大久保南小学校がまだ無かったという事情が大きかったのではないかと思います。この件については心を入れて取り組まざるを得ないと考えています。

◎会長

今まとめていただいたように、自治会の方でまとめをしていただくということでお願いしてよろしいでしょうか。

●事務局

全てを自治会に委ねてしまうというのはあまりにも厳しいと思います。今の状況についてはこれまでも事務局からPTAも含めた地元の方に何度か説明していますが、役員改選などもありましたので、また改めて今の状況について説明してご意見を伺って、その状況をこの場においても報告したいと思います。

○委員

専門の委員会を立ち上げなくては仕方が無いです。そこに自治会に入ってもらって色々検討して意見をまとめないと。結局スクールガード等で自治会のお世話にならないといけないから、自治会に納得してもらう必要があります。スクールガードが通学路に立ってくれなければ子どもたちは危なくて国道も渡れないという問題が出てきます。自治会が納得したという了解をとらなくては。

◎会長

当然大久保小学校の問題解決が第一ですが、大久保小学校の問題を解消するために新たに危険が増すようなことはできません。安全な通学路を必ず保障しながら、変更できるのであれば変更していきたいということです。ですから先ほどの④（大久保駅前自治会等）を大久保南小学校へという案も、もし危険が伴うのであれば実施すべきでないと思います。

○委員

質問があるのですが、今の案では大久保小学校が1,040人ぐらいの規模になり、子どもたちの環境は今よりは改善されると思いますが、それでも1,000人規模だと学校行事の面で、例えば音楽会等は一日で行うことは難しいですか。

○委員

同じ人数でも音楽会を二つに分けて行うかどうかは考え方によって違います。1,000人規模は微妙な数字で、分けるか分けないかどちらかを選ぶような状況になると思います。しかし1,100人、1,200人になると必然的に分けざるを得ないと思います。運動会を二つに分けるというのは聞いたことがありません。

◎会長

現在、大久保小学校は1,300人で何とかやっていたいでいるので、それが1,000人規模まで減れば相当変わってくると思います。

○副会長

前回の提案の中で、調整区域の解消と通学区域の変更、他校への調整区域の設定、校舎の増築、新設校の設置ということで提案がありましたが、その中でも通学区域の変更が一番良いのではないかとということで、今日はそれについてもっと深く話すために、自治会を基に区切った提案をしていただいたと思います。

今まで色々提案があった中から、今日は自治会をメインとしてどこをどう変えるかという話をしてきており、私はそれでいいと思いますが、そういう方向で進んでいっていいのかということを確認しておきたいです。

◎会長

最初に事務局から説明があったように、大前提としてはやはり新設校設置や校舎の増築が問題の解消になるだろうということがありますが、財政的な問題等今後の事を色々考えると即対応できない部分があるということで、今は通学区域の変更に目を向けています。そして通学区域を話し合う上では自治会というものが非常に大きいのではないかとということで、今日は自治会レベルの区分けに対する検討を行っているところです。

自治会ではなく、道路や町レベルで切るという考えもあると思いますが、前回会議で、大久保小学校区では自治会単位で考える方がいいのではないかと意見が出ましたので、このような案を作っていました。

○副会長

私はその方向で進んでいいと思いますが、皆さんもそれでいいのかという確認したいです。

◎会長

そういう方向でまとめていくことについて、いかがでしょうか。

○委員

それは前回の議事録にも書かれており、本来であれば新設校が望ましいですが、やむを得ない選択肢としてこういう形をとるということを確認されているので、それで問題ないと思います。

今回の案は、事務局において現在考えられる最善の区分けをし、それについてのシミュレーションを複数提示していただいたものなので、これ以上のプランを考えることは難しいだろうと思います。①～⑦の分け方についても、またその組み合わせ案についても妥当だと思います。

これらの案は数字と地図の上だけで考えたものなので、細かい点についての詰めが必要ですが、原則としてはこの中から選ぶということで問題無いと思います。

候補としては恐らく案C（2）〔①→谷ノ木小、③④→大久保南小、⑤～⑦→沢池小学校〕かB（1）〔①～④→大久保南小学校、⑤⑥→沢池小学校〕のあたりが有力だと思いますが、気になっていることは、削減効果と受入側のキャパシティを考えた時に、今後の大久保南小学校の推移に少し懸念材料が残っているということです。ですから大久保南小学校には若干余裕を残しておきたいと思っています。最大で244名増えることにはなりますが、そうすると3学級分ぐらいしか余裕が無いですね。その場合にはプレハブを増設して凌ぐということもありえますが、そこだけが少し気に掛ります。

ただそればかりを言っても仕方が無い部分があり、対応策が無い訳でもないのですが、削減効果と受入側のキャパシティを考えれば、自ずと案の中での優先順位がつくと思います。

後は、今後この審議会としてどういう手続きを踏むべきなのかということが分からないので、会長に一任したいと思います。例えばこの会においてなるべくそのプラン通りに進む案を出すということであれば、先ほどのお話のように地域の自治会の方にお任せして、それを吸い上げてプランを出すということが一番スムーズに行くだろうと思います。

通常の場合であれば、恐らくここで一定の選択肢を含めた結論を出しておいて、後の調整は行政にお任せするというのが普通のプロセスなので、そういうやり方があるのだと興味深く思っています。確かにその方が手に手を取り合って進めている感じが出て良いと思いましたが、時間との闘いがあるとすれば、こちらで一定の結論を示すという方法になると思います。

自治会にお任せする方法はスピードの面で問題があるかと思いましたが、委員の皆さんも頷かれていましたし、それはそれで良いきっかけになるのではないかと思います。

◎会長

事務局との打ち合わせでは今日は結論を出さなくてもよいということでしたので、次回までに自治会との関係を汲み取ってもいいのかと進めております。

我々がどれかを選んでラインを引くということは時間がかかりますが、これらの案の中で大体どこを選ぶかということは、少し時間をおいて次回ぐらいに決めていきたいと思っています。微妙な大久保町独特の伝統的なこともありますので、それも大事にしながらやりたいと思っています。

地元の方にできるだけ納得していただける方法を探したいと思いますが、最終的には審議会として線引きを決定していく必要があると思っています。事務局いかがでしょうか。

●事務局

事務局としては、今日はまだこの案を示したという段階ですので、今日結論を出すということは考えておりません。また最初にご説明したように、この案の数値はまだ昨年度の推計を基にした内容になっておりますが、平成26年度の児童数が出ていますので、それに基づいた推計に置き直していきたいと思います。先ほど懸念されていた大久保南小学校や沢池小学校の児童数推移、施設の保有状況等についても改めて示させていただきます。

地元への説明についても、新年度の新たな役員の方に大久保小学校の現状説明や通学区域審議会での今の検討状況についても説明し、意見を伺って次回この審議会へ報告いたします。

◎会長

決してゆっくり結論を出すべきものではありませんので、できるだけ早くラインを出したいと思います。それぞれ委員には今日の案の方向で考えていただき、次回までに考えをまとめていきたいと思います。最終的にこの案にするとどうなのかという部分をもう少し詰めていただき、無理はないのか、児童の安全はどうなのか、受け入れ側の状況はどうかということも考えながら、大久保小学校の問題解消ができればと思っています。そういう総合的な判断の下に、できれば次回ぐらいに方向性を示したいと思いますがよろしいでしょうか。

○委員

答申を出すのはいつ頃になりますか。できるだけ早い方がいいのは分かりますが、次回に簡単には決められないと思うので。

●事務局

しっかりとした議論の上で決めていく必要があります。ここで結論が出てもそれに対して市民の意見も聞かなくてはいけませんし、教育委員会でも最終的に決めるまでに議会に報告するなど手続が必要になります。更に地元との調整もしながら決定していくということになりますので、できるだけ早めの結論をととは言っても、この審議会が全ての責任を負うということではなく、最終的に教育委員会で決めるまでには色々な手順を踏んでいく必要があります。そういう意味ではできるだけ早めをお願いしたいですが、絶対次回に結論を出すということではありません。

◎会長

我々審議会の目的としては、大久保小学校の子どもたちを今の状況からできるだけ早く救いたいということになりますので、じっくり進めていく時間はありません。次回には新しい数値を基にしたものを出していただくようお願いしたいと思います。

3. 事務連絡

●事務局

本日は長時間に渡って熱心なご議論をありがとうございました。

以上